

副会長の野村忠央でございます。閉会の辞ということで一言、ご挨拶申し上げます。北海道は先日から暴風雪でしたが、東京は今日がここ数日で一番恵まれたいい天気だったように思います。そのような次第で本日はここ数年の年次大会で一番多くの参加者がおられたように思われますが、多くの先生方にご参加頂き、誠にありがとうございました。また、本日の大会に向けお骨折り頂いた、加賀岳彦大会運営委員長を初めとした大会運営員会、役員の方、また、開催校代表の渋谷和郎会長を初めとした開催校委員の千葉工業大学の先生方に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

私はここにおられる先生方の中で比較的多くの学会に入会しているものと思いますが、昨今は日本英語学会など抽象的な研究発表が増加している中、個人的には、英語語法文法学会と本会日本英語英文学会は具体的な言語事実を扱っており、正直、ホッとする感がございます。

本日の第27回年次大会は英語学、英語教育学、英米文学の三分野全ての発表があり、また、その発表者も下は二十代の佐藤亮輔先生から上は八十代の菊地喜平先生がおられたことも本会の多様性を示しているものと存じます。JAELLのいいところは研究発表の場で全分野の先生方が会するところですが、今回は当日会員の先生方のご参加も大変多く、また、高校の現場の先生方に複数ご参加頂いたことも大変喜ばしいことでした。加えて、今回は賛助会員のDTP出版の鳥居社長、木村さん、中野さんに加え、開拓社の川田さん、ユーリカプレスの小森さんにもご出展頂きました。Reallyenglishの大竹さんにも大会参加を頂きました。そして、初めての試みとして、発表会場の後ろに出版社三社にご出展頂きましたが、通常の学会では離れた教室で分離されて疎外感がある中で展示されているのに対し、今回は研究発表も全て一緒にお聞き頂き、出版社さんとも一体感があつたように思います。(出版社さんは聞きたくなかったかもしれませんが、一番後ろなので、聞きたくない時は他の作業ができたものと想像します。)

さて、私は副会長などを致しておりますが、比較的年齢が若い役員でございます。しかし、実は十年後には現在の会長、常任理事、理事、評議員の多くの方が退任されています。どこの学会でも共通の問題なのですが、会員数の減少が深刻な問題となってきております。学会員の参加、活動なくしては学会は立ち行きません。本日は多くの当日会員の先生方が参加して下さっていますが、この後の懇親会にも当日参加が可能ですのでよろしければぜひご参加下さい。更には学会にもご入会頂ければ大変うれしく存じます。私もこの学会に古くからいるように見えるかもしれませんが、実は本来、外様の会員です。25周年記念号の謝辞にも記したことですが、今から14、5年前になるでしょうか、私が大学院修了後、偶然、顧問の永谷先生と同時期に母校の青山学院の非常勤を勤めることになり懇意にさせて頂くことになりまして、「日本英語英文学会という学会があるんでございますが、ぜひ一度、ご参加頂けませんでしょうか」と何度も何度も永谷先生に誘われまして、亜細亜大学での大会に参加致しました。年長者の渋谷会長がケンブリッジ大学の大学院生として発表されていた時です。そうしますと、ぜひぜひ懇親会もご参加下さいと誘われ、結局、その日のうちに学会

そのものにも（その場で領収書を発行され）引き込まれてしまいました。私などもそんな形で学会に入会した人間です。ですので、本会はアットホームな、経験事実を大切にする学会ですので、当日会員の先生方におかれましても本会の活動が興味深いと思われましたらぜひご入会頂きまして、また会員の先生方にも多くの知り合いの方々にお声掛け頂きまして、本会の活動を盛り上げて頂ければと存じます。次回大会は来年 3 月に日赤看護大で開催される予定ですが、学会誌で何度かお名前を拝見していても一度もお会いしていない先生方も少なからずおられます。そのような先生方も含め、来年度はより多くの方々にご参加頂き、盛会となることを祈念致しまして、閉会の辞とさせていただきます。ありがとうございました。